

第2回 徳島市まち・ひと・しごと創生懇話会 会議録

日時：令和元年11月5日（火）15時から

場所：徳島市役所8階 庁議室

出席者 委員11人、市長（会長）、事務局

1 開会

2 委員紹介

3 議事

（事務局）

議事(1)~(2)について説明

- (1) 第2期徳島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について
- (2) 今後のスケジュールについて

（会長）

皆さんから忌憚のないご意見を頂ければと思います。順番にお願いしたいと思います。

（委員）

まだ具体的にはこれからという段階で、少しイメージしづらい部分もありますが、素案を見て一番に思ったことは、実現すれば素晴らしいということばかりであり、第1期総合戦略の時から素晴らしいことがたくさん行われていたのに、情報が入ってこないこと。前回の懇話会でも言いましたが、情報の発信をもっとしていただければよいと思います。

第2期総合戦略が確定して、実際に進めていく段階になった際に、もっと市が頑張っていることがみんなに伝われば取組がさらに効果的になるのではないかなと思いました。

内容については、主婦として、子育ての部分が充実している点がいいと思います。移住関連については、具体的に徳島のブランドを発信する仕組みが必要かなとも思いました。

（会長）

ありがとうございました。次の委員さんお願いします。

（委員）

基本目標1の「安定的な経済基盤づくり」について、次世代を担う人材育成に取り組まれていることが純粋に良いと思いました。教育の推進など実施すると書かれているので、次世代を担う若者が、主体的に学べる環境を整備できればより効果的な取組になるのではないのでしょうか。次世代を担う人材育成を行うことで地域も自立した地域経済をつくることができると思うので、とても良い取組だと思います。

基本目標3の施策「まちのにぎわい創出」についてですが、駅前のそごうが閉店するという話や空き店舗など様々な問題があると思いますが、基本目標4の施策「コンパクトで魅力的な都市の形成」が今後を考えるうえでの方向性になるような気がします。

(委員)

SDGsについて盛り込まれてもらえてよかったと思います。基本目標2の子ども・子育て支援の推進について、先日行われた子ども・子育て会議でも話題になりましたが、切れ目のない支援を行うために、何ができるのかをこれから突き詰めていってほしいと思います。まだ具体的な話をする段階ではありませんが、施策として掲げるだけではという気がします。

特に産前産後～乳幼児期が大事であり、産後すぐに父親が子育てに関われるよう、産前から赤ちゃんを迎え入れる準備として、赤ちゃんがいることで生活が夫婦にとってどう変わっていくかということ、1歳過ぎ程度までの赤ちゃんがどう成長・発達していくかを学ぶ機会を持っていただくことが重要です。夫婦で共に赤ちゃんを迎えることについて学べるような講座があれば、全国でも珍しい取組になります。最近京都の亀岡市で一般社団法人が立ち上がりましたが、特に男性は意識しなければ父親としてのスイッチが入らないので、切れ目のない支援についてももう少し進めて、はっきりとした取組を作っていくってほしいと思います。

基本目標2の名称は、第1期総合戦略の際に色々議論したので、第2期総合戦略では変わっていて良いと思います。

つぎに、基本目標4の持続可能な地域づくりに地域自治・協働の推進という施策について、21pに「NPO団体等の育成・支援」と書かれていますが、子育て支援の分野に特化して話をさせてもらいます。徳島市は市直営の子育て支援施設が多く、NPO法人が運営している子育て支援の拠点となる場所がほとんどありません。これは時代に逆行していることで、保育士不足の関係もあり、全国的には地域の方の子育て支援を、シニア世代を含めて誰もが子育て支援に関わるという流れになっています。徳島県ではアクティブシニアコースという研修で、シニア世代の方を保育補助にしようとしています。市直営の施設では保育士さんしか運営できないような体制づくりがされており、一般の人やNPOなどが子育て支援の活動をしようとしても、活動の場を設けられない状況なので、子育て支援のNPOについては、支援をもう少し考えていただきたい。既存のNPOも高齢化が進んでいるため、次の世代のNPOや地域の方が子育て支援に関われるような仕組みを具体的に出していただけたらと思います。

(会長)

おっしゃる通り、切れ目のない子育て支援とって、具体的に何をすることが問題ですね。目標としてはしっかり書いておかなければいけないのですが、今ご指摘いただいたように徳島市は直営の施設が多く、確かにその弊害は出ています。これからの問題もいくつかご指摘いただきました。ありがとうございます。

次の委員さんお願いします。

(委員)

前回の懇話会の内容も盛り込まれており、4つの基本目標もとても良いと思います。目標達成に向けて、PDCAサイクルできちんと見直ししながら、またこういった目標で徳島市はやっていますよと広報をしっかり行って推進していきってほしいと思います。

SDGsについてもアイコンをつけていただいてわかりやすくなったと思います。

ただ、NPOとの連携については一時よりも少なくなっているように思うので、活発に機会を作ってほしいと思います。

徳島駅の近くで色々な問題がありますが、駅前には県都の看板となる場所であり、市民も注目しているので、一丸となってまちづくりを進めていただければと思います。

(会長)

色々大きな問題が出ておりますけれども、しっかり頑張っていきたいと思います。いろいろなお指摘いただければと思います。次の委員の方、お願いします。

(委員)

素案を見て、徳島市は色々なことをやらなければいけないと改めて感じているところです。

基本目標4の現状・課題に、“女性・高齢者・障害者・外国人など「誰もが活躍できる地域社会をつくる」”という表現がありますが、これらの人が少数派、あるいは前提として活躍できない人というメッセージを与えてしまう恐れがあるので、少し表現を工夫してほしいと思います。ジェンダーやダイバーシティの観点から言うと、性別・年齢・障害の有無・国籍、そういうものに囚われない多様な働き方ができ、誰もが活躍できる地域社会であるということが大事です。これからは女性が活躍しますという時代ではなくて、これ以上ないくらいに既に活躍している女性たちがたくさんいらっしゃいます。普通に活躍できるのが当たり前前の社会だと思いますし、徳島はそうになってほしいと思います。

また、最近県外から来た人の話を聞いて、そこから徳島市の魅力に気づくことがあります。徳島市で暮らしてみたいという人の話を聞くと、お洒落な喫茶店が割と多いことや、新町川クルーズや人形浄瑠璃などが楽しかったということでした。長崎が非常にコンパクトシティで、観光がある程度の範囲にまとまっており、1日500円のバスですべて回れるようなまちなのですが、そういったまちづくりをしていただきたい。1日で徳島市が楽しめる、といったまちが提案できるような観光や働く場づくりができればと思います。

(会長)

たしかにおっしゃるとおりですね。男性目線とおっしゃいましたが、市役所の幹部はほとんど男性で、女性もいますが、非常に少ないということで、どうしてもそういう視点になっているのかなと思わざるを得ないようなところがあります。確かに女性が、と言い続けてきましたが、そういう時代は過ぎているのではないかと。ありがとうございました。次の委員の方お願いします。

(委員)

基本目標3の施策方針「都市ブランドの創出」という部分についてですが、1番目に都市の魅力発信、2番目に「とくしま」ならではの魅力向上、3番目に「とくしま」への愛着・誇りの醸成という順番になっています。もちろん魅力の発信は大事だと思いますが、それ以前にそこに住んでいる人がその魅力というものをわかっていないといけないと思います。

まず私自身が徳島の魅力というものをわからないと人に伝えられないし、そこで住民のためと思って始めた政策が実を結んで、それを知った外部の人たちが引き寄せられていくという流れだと思っています。漠然とですが、住民の幸福度が高まれば、それにひかれて人が集まって、いずれ東京圏を中心とした都市にとられた人口が取り戻せるのではないかなと思っています。

(会長)

住んでいる人が魅力をわかっていないといけないということですが、徳島には「徳島にはなんちゃんいけん！」という人がいます。私は県外の人に聞いて徳島のいいところを改めて認識するということがたくさんありました。県外から徳島に来た方に、徳島はこんなところがいいですよ。こんな住みやすいまちは無いですよと言われて初めて気が付く。今徳島には「徳島にはなんちゃんいけん！」という意識の人が非常に多いです。住んでいる人がまず自覚をしないと発信もできないというのは確かにおっしゃる通りです。

(委員)

あとは、具体的な施策を始める際にはおそらく他の市町村で行われているものを参考にされると思いますので、そういった情報収集というのもできるだけたくさんいろんなところでやっていただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。次の委員さんお願いします。

(委員)

前回の懇話会の意見がすぐに今回の素案に反映されていることで、徳島市の意気込みを感じることができました。

徳島は「くるみん」という国の仕事と家庭の両立支援の認定率で、一時期、全国1位だったことがあり、全国的に見ても両立支援を行っている企業の割合が高いということが言えます。あくまでも推測、仮定の話になりますが、阿波おどりをあれだけプロフェッショナルに、魅せるおどりをするからには練習時間の確保などに皆さん苦勞されていると思うのですが、そういった部分に企業が理解を示し、またそれが企業にとってもプラスになっているという実感が経営者側にもあるのではないのでしょうか。いわゆるサードプレイス、職場や家庭以外の居場所を持っている方々というのが、それぞれの居場所での経験や人脈が、仕事にも良い結果をもたらすということが実際に起こっているのではないかと思います。

徳島が働きやすいまちであることをもっとアピールする手法はないのかと思います。国の指針では、「プラチナくるみん」や「くるみん」といった認定を取得した場合、公共調達に加点をするような指針があるんですが、そういったことに徳島市は取り組んでいるのでしょうか。そういった働きやすい企業に対して優遇措置をしているということ、是非見える化していただきたい。

もう一つは、SDGsを推進するにあたって、SDGsを推進する室を設置して、各課を横断してSDGsの視点を取り入れた施策を展開するなど、取組を具体化させるために提案させていただきたいと思います。

次に多様性について、鳴門市では被保護者の就労支援に取り組んでいます。被保護者については、これからも取り組んでいかなければならないことだと思います。徳島市として働きやすいまちを目指すのであれば、就労支援について先手を打って早めに取り組む必要があるのではないのでしょうか。

外国人についても記述が出てきましたが、今年度初めて外国人採用ノウハウセミナーを実施

したところ、定員を超える申込みがありました。県内の事業所は真剣に外国人の採用を考えています。どのように行政の施策に取り入れればよいかですが、インターンシップや職場体験を推進していただければと思います。大学関係者も留学生の優秀な人に残ってもらいたいが、企業がもっとインターンシップをしてくれればいいのと言っていました。職場実習を取り入れて就職するというのが就労につながる確実な道になっています。ここは企業の協力をもらわないといけないのですが、是非民間企業とそういった連携をしながら、多様な立場の人が働く体験をする場を創出していただきたい。企業にとってもそれは決して手間ではないと思います。私どもの事業においても職場体験を多くの企業に受け入れていただいています。受け入れ企業が、次回を断ることはないことから、企業にとっても職場体験を受け入れることがプラスに働いているのではないかとこの感触があります。

今いる人たちを大切に、徳島市ではこういう風に働いたり生活したりを幸せにできるんだという声が伝わっていけば、人は入ってくると思います。まずは今いる多様な人たちをどれだけ幸せにするかというところに主眼を置いて施策を展開していただきたいと思います。

(会長)

働きやすいまちとおっしゃいましたが、以前民間企業の方から、徳島には働く女性が非常に多く、働きやすい企業がいっぱいあるのだという話を聞いたことがあります。徳島が、共働きを支援する企業が非常に多いまちであるということに、なかなか気づけないんですね、日常ですから。そういった企業の表彰など、分野によってはしていますが、確かにそういった取り組みも必要だと実感しました。

生活保護の方について、就労支援をしていただくのも非常に良い話です。またご指導いただければと思います。次の委員さんお願いします。

(委員)

前回の懇話会の内容が、思った以上に素案に反映されていて大変驚きました。レイアウトも非常に見やすく、すごくまめな方がまとめられたのだと思います。このまま公表されても、見てもらいやすいものになっていると思います。

自治体で作成する方針案になるので、全体としてどうしてもある程度あいまいにならざるを得ないと思いますが、そこはそれを読んだ人がどう解釈をし、具体的にどう進めていくのかという方向性がわかるよう示されておれば、徳島市としては大成功ではないかと思います。

それをふまえつついくつか意見を述べさせていただきます。5～6pについて前回の意見を反映させておりこれでよいと思いますが、17の目標を施策方針に合わせるよりは、具体的な施策に合わせたほうが後々検証するときにわかりやすくなる気がします。例えば、最初の施策「成長産業の創出」について、SDGsの目標のうち、1、8、9のどれを実現したのかというのが見えてこない可能性があるため、本来は具体的な施策に当てはめたほうが良いという気がしました。

各基本目標の方向性がわかりやすく示されているのはよいのですが、目標だけ非常に具体的な数字が示されています。もう少し目標もアバウトに書いてもよかったのではないのでしょうか。例えば、基本目標1の就業者増加数については、1,000人という数字の根拠はなんなのか、離職者数は考慮するのか。基本目標2の出生数については社会増減は考慮するのか。同じく基本目標3の数値の根拠は何か。基本目標4の90%以上という数字について、100%でないのはな

ぜか、また誰をターゲットにして住み続けたいと思うということを想定しているのか。当然徳島に住み続けている人を対象とすれば、90%以上が住み続けたいと思っているはずで。調査を行うのであれば、徳島市において人口の流入に大きく作用する、就職・進学あるいは退職のタイミングで調査したほうがよい気がします。

それから、20pに第1期総合戦略よりも施策の範囲を広げる、と記載がありますが、あまり広げすぎないほうがよいと個人的には思います。

人口減少は回避できず、数値を挙げて人口の増加を図ることも難しいのではないかと感じています。人口が増えるには自然増社会増の両方がありますが、複合的な要因が絡んできますので、なかなか自治体が努力しても実現が難しい側面があるのではないのでしょうか。数値を目標としてしまうと、数値の上下のみで評価される可能性があります。今回は数値目標を示されましたが、目安程度に理解しておいたほうが良いと思われま。

これからは「質」の向上が結果として「量」の向上に結び付いていく、要は社会性や幸せということを追求することで、結果として人口が減りにくくなるという方向性で政策を進められたほうがよいと思います。他の委員さんもおっしゃっていましたが、「質」を保証する意味で「育児支援」は絶対にやっていかなければなりません。幸いこれについて徳島市はトップレベルなので、このまま拡充していくということになると思います。次に重要なのは、人口の流入のタイミングとなる「教育の充実」と「雇用の拡大」です。教育と雇いをうまく結びつけられる政策を提言していく必要があると思います。つまり、子育て支援、教育、雇用に関する情報発信を進め、県外からの「魅力」度アップと県内の「愛着」度を高めていくことにつなげていく必要性を強く感じています。

最後に、大きな目標を立てて今後5年間頑張っていくにあたり、それらの成果の測り方を今の段階から検討しておいたほうがよいと思います。特にこの場合、数でなく質の測り方を検討しておく必要があります。先ほど述べたように、これからの私たちの生活は量ではなく質で決まってくるので、質を充実させることが何よりも大事になります。

徳島市に限らず、色々な価値観についてパラダイムチェンジが起きており、今起きているさまざまな問題は其中で起きていることだと思います。遠藤市長は大変困難な中で市の方向性を決めていかなければいけないと思います。これからの徳島市のあり方を考えていく際、長期的な目線で、次の世代に少しでもいい徳島市を残していくような戦略を考えていかれる必要があると思います。

(会長)

色々ご指摘をいただきました。事務局から何かありませんか。

(事務局)

それぞれ基本目標の積算について説明させていただくと、

基本目標1の就業者数の増加については、第1期の際も同様の手法で積算しましたが、創業促進や企業誘致など、具体的な事業による数値を拾い上げた結果が1,000人以上という数値になります。なお、離職された方は差し引きしていません。生み出された就業者数が1,000人以上という目標になります。

基本目標2の出生数2,200人以上については、第1期の策定をする際の出生数が概ねその程

度の規模でしたので、それを維持していきたいという形での設定で、それを第2期でも引き継ぎました。

基本目標3の転入超過数150人以上ですが、第1期取組前の5年間の平均がおおよそ150人程度の転出で、第1期の取組期間では平均するとおおよそ均衡状態に入っていたということで、同じような形で伸ばしていきたいということで設定しました。

基本目標4については、市民の方3,000人を無作為抽出して行う市民満足度調査から引用している数値ですが、ご指摘の進学・就職のタイミングでの調査など、ここに掲げているものとは別として、そういった視点も大事にして検討していければと感じました。

この場ではこういった形で委員の皆様にご説明させていただきましたが、確かに第2期総合戦略を見た市民の方々が、なぜこの数値になっているのかと感じられることもあるかと思いますので、工夫をしてみたいと思います。

(会長)

次の委員さんをお願いします。

(委員)

目標のことにについては先ほど触れていただいたので、5点ほど質問プラス要望という形でご提案したいと思います。

1点目、素案2pに徳島市総合ビジョンとの関連について説明がありますが、横断型プロジェクトというのは具体的に言うとうどういうものか、関連はとういうものなのか教えてください。素案だけを見ても、具体的にとういう方向で進めるかとういうのがわからなかったのです。

2点目、1点目にも関連しますが、一般的にとういう計画には、どこがとういう風に推進していくのかとういういわゆる推進体制図が載っていたりしますが、どこかに載せる予定はありますか。

3点目、5p、6pのSDGsのアイコンについて、非常にわかりやすいのですが、厳密に、例えばパートナーシップなどはいろんなところに該当しており、カテゴライズを厳密にするのはかなり大変であると思うのですが、具体的な事業までアイコンで示していくのか、あくまで目安と考えて、今回のレベルにするのかなど、方向性が決まっていれば教えてください。

4点目、国の基本方針に観光業という言葉があったと思いますが、施策レベルでは出てこないようですが、あえて出していないのでしょうか。おそらく交流の促進あたりに入るのではないかと思います。

5点目は要望になります。多くの市民が参加することが重要であると思っております。市民参加という意味でこの懇話会があるのかもしれませんが、民意を背負ってここにきているわけではありません。

市役所の施策ではなくて、徳島市民の目指す方向ということであれば、多くの市民の方から意見をもらうこと、あるいは市民が議論しながらとういう徳島市であるべきか考える機会を増やしていくことが非常に重要なと個人的には思っています。今回はスケジュールが決まっているかもしれませんが、今後は市民が参加するような機会が増えていけば良いと思います。

(会長)

事務局から説明をお願いします。

(事務局)

順番に申し上げます。

1点目、総合ビジョンとの関係について、総合ビジョンには実施計画に相当する「推進プラン」があり、その中に重点事業を個別に掲げていますが、総合戦略についても実施計画に相当する「アクションプラン」を作成します。この「推進プラン」と「アクションプラン」の事業はある程度共通した形で取り組んでいくこととしております。また、総合ビジョン・総合戦略ともに、庁内組織として部長級で構成する推進本部及び副部長級で構成する幹事会を設置しており、これらは同じメンバーで構成され、情報共有や推進に当たっています。

2点目、推進体制の図については確かに掲載できておりません。今申し上げましたが、庁内に推進を行う組織の設置などをしておりますので、推進体制図の掲載については今後検討していきます。

3点目、SDGsのアイコンについてですが、SDGsの対象が非常に幅広いため、SDGsの目標の下に設定されたターゲットを勘案してアイコンをつけています。施策レベルでつけるということも考えましたが、SDGsの目標の大きさもあり、方針に置かせていただきました。

4点目、観光業という文言についてですが、国の基本方針には、外貨を稼ぐという視点から、経済活性化という文脈で観光業が位置付けられています。徳島市の総合戦略については国の方針とは異なり、交流人口の増加に位置付けて作成しているため、今回の書き方になっていますが、観光業の施策もこれらに含まれており、総合戦略で取り組んでいくこととしています。

(会長)

次の委員さんをお願いします。

(委員)

前回の懇話会の内容が反映されていて、嬉しく思っています。

徳島市はいつも水都徳島と頭につけるほど、川が市民の憩いの場になっていますし、それを魅力として県外の方に伝えることもできていると思っています。それはもちろん川で活動するボランティアやまちの人たちも誇りに思っていることです。

今回、16pの徳島市の強みの中に、「縦横に多くの川が流れる市街地」次に「眉山」という言葉が入っています。徳島市民にとっては大好きな、身近な自然がたくさんあるところです。私は小さい時から眉山を歩いて育ちましたが、軽井沢に行かなくても、徳島のこんな真ん中に自然がある、といつも思います。そんな眉山ですが、昔から登り口という看板が一つもない状態です。八万の方から登るルートや、南佐古六番町からかんばんの宿がある場所へ登るルートなど、たくさんの道があります。もちろんひょうたん島とつなぐこともできるんですが、まちなかにある場所なのに、あまり知られていません。看板やマップを作って、マップは作ってあるとは思いますが、知れ渡っていません。すぐにできることだと思います。そういったものがあれば登ってみようと思うのではないのでしょうか。

魅力の発信についてですが、海外・県外の友人に徳島の話をする、みんなが一緒の仲間に

なりたいと思ってくれて、継続するかはわかりませんが、私の友人たちはずっと続いてきてくれています。こつこつ活動すれば、徳島の魅力を発信することはすごく簡単なことなので、みんながそれをすればいいと思います。身近な人から知っていつてくれればいいと思います。

後は、最近気づいたことですが、公民館の入り口にガラス戸のボードがあり、そこに公共工事の内容や、予算が細かく乗っているプリントが綴じられていました。初めて見ましたが、こんなに細かく書いてくれていて、情報発信をしているのはしているのだと思いました。しかし、月2回の広報紙だけでは浸透していないし、もちろん各公民館でそういった情報公開をしても、あれをみんなが見るわけではありません。どうすればいいのかと思いました。

(会長)

眉山へ上るルートはたくさんあり、健康づくりにもつながりますし、良いですね。

また、東京に行った時、以前徳島にいた方が、まだ徳島の NPO に所属して会費も払っているとっていました。そうやって徳島を好きになってくれる人もいるのですよね。

次の委員さんお願いします。

(委員)

素案は概ねよくできていると思いますが、今後のアクションプランに繋げていくことをしっかりやっていただきたいと思います。事業を色々と考えられると思いますが、既存の事業の貼り付けではなく、総合戦略になじむような、新たな事業も考えるとともに、しっかりと予算をつけていつてほしいと思います。

私なりの感想、若干要望となりますが、今経済界、産業界が一番悩んでいるのは人材不足、人手不足で、募集をしても人が来ないという状況です。工夫しながらやっていますが、一方で働き方改革があります。中小企業は基本的には来年から適用となりますが、働き方改革に対応しようとしても、なかなか人が集まらない。では生産性を向上させるしかないということになります。生産性を上げるためにはある程度投資が必要で、投資に見合う成果が上がるかどうかという問題もあります。最低賃金の引き上げなども、政府は1,000円という話もしていますが、日本商工会議所の調査では、労働分配率は大企業が3割と言われているのに対し、中小企業は7割と言われています。全てではないですが、賃金を払えば自分の会社の首を絞めるという企業もあるのが中小企業の実情ではないかと思っています。

もう一つが後継者不足です。後継者がいないために廃業する企業には収益もあり、取引先もしっかりしているというところもあります。そういった企業であっても後継者がいないので廃業するというのが実情です。その廃業によって雇用の方が失われていくということで、後継者のいない企業に対しても何とか手を打っていただきたいと思っています。

素案に戻りますが、基本目標1の「地域産業の競争力強化」について、アクションプランに海外展開を入れていただきたいと思います。市場が縮む中で海外展開をしていくのは当然の流れであり、海外展開に取り組む企業が、県内でもかなりありますので。あるいは EC 市場の中で色々取り組んでいるところもありますので、そういった企業へ支援を頂ければと思います。

それから、農業分野と商工業分野の連携について。徳島の農産物は品質が良く、素材としては重宝がられますが、徳島産ということは消費者にはあまり知られていない。例えば鰻料理といえば京都ですが、鰻は徳島産のものがかなりの割合を占めています。そこで、6次化するこ

とで徳島の商品というネーミング（ブランド化）もできますし、徳島の知名度も上がると思いますので、6次化への取組もさらに支援いただけたらと思っています。

あとは学生です。人口の統計を見せていただくと、大学に入るときに大きく人口が増え、卒業の時に県外に出ていっています。これは徳島市のメリットでもあり、デメリットでもある。各大学も色々と事業展開されて工夫されていますが、一つは県外から来た大学生に徳島に残ってもらう、これは就職の受け皿として企業が頑張らなければいけません、せっかく優秀な人が県外からきているので、そういった人に残ってもらう工夫、もう一つは県外へ出た徳島出身者に再び徳島に戻ってもらう工夫が必要ではないでしょうか。若い人が育たなければまちに活力もでない、是非学生の獲得、確保といったことをしていただきたいと思います。

（会長）

経済分野からの知見ということでおっしゃっていただきました。ありがとうございました。

予算については、新たな取組に伴い、継続的に支出が増えていく中で、扶助費の増大もあり、かなり財政的には苦しいところです。

事務局から何か補足はありますか。

（事務局）

欠席委員の方からも意見を伺っているところです。農業関係や金融機関関係の方もいらっしゃいます。そういった分野からの意見もいただけたと思いますので、第2期の総合戦略の策定について参考にさせていただきたいと考えております。

（会長）

<挨拶>

4 閉会

（事務局）

【今後のスケジュール等事務連絡】

終了